

地方自治

～自分が住むまちのまちづくりを考えよう～

本校の育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性・協働性

- 1 日時 令和2年10月7日(水)
- 2 学年・学級 3年D組(男子14名 女子16名 計30名)
- 3 場所 3年D組教室
- 4 単元について

単元観

この単元は学習指導要領(平成29年)社会[公民的分野] 2内容 C 私たちと政治(2) 民主政治と政治参加 に基づき設定する。

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意, 効率と公正, 個人の尊重と法の支配, 民主主義などに着目して, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際, 地方公共団体の政治の仕組み, 住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて, 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。

(ア) 民主政治の推進と, 公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察, 構想し, 表現すること。

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編によれば, この単元は「個人の尊重と法の支配, 民主主義など, 法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に, 民主政治の推進と, 公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について考察, 構想し, 表現することができる適切な問い」を設け, 「それらの課題を追究したり解決したりする活動を通して, 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成すること」を主なねらいとしている。この項目で身につける「知識」に関わる事項では「地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際, 地方公共団体の政治の仕組み, 住民の権利や義務について理解すること」が挙げられている。このことは「住民自治を基本とする地方自治の考え方について理解できるようにすること」を意味しており, 「地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり, 住民参加による住民自治に基づくものであること」を理解させることが重要である。また「知識」に関わる事項では「地方公共団体の政治の仕組み, 住民の権利や義務について理解すること」と挙げられており, 身近な地方公共団体の役割について取り上げることで, 地域社会への関心を高め, 地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基

礎を育成することも重要視されている。

現在、地方自治体を取り巻く状況は、少子高齢化・情報化・グローバル化、そしてコロナ感染症による経済の変動などにより急速に変化している。さらに、子育て支援や防災対策、福祉、教育の充実など多岐にわたる社会問題に着実に対応しつつ、活力ある豊かな地域づくりに向けた取組を、これまでの行政主導から住民主導へと移行していくことが欠かせなくなっている。そのため、誰もが安心して豊かに幸福に暮らすことのできる地域をつくる住民として、様々な地域の課題を解決しようとする態度や能力を育成することが求められている。

そこで本単元では、「持続可能なまちづくりのために、尾道市はどのような政策を進めるべきか。」という単元を通した学習課題を設定し、地方自治の基本的な考え方や仕組みを学習した後に、よりよい地域づくりのために必要な政策や自分たちにできることを主体的に追究できるようにした。一人の主権者として、また尾道市で生活する住民の一人としての自覚を育て、地域づくりに積極的に関わっていく態度や能力を育てることをねらいとして本単元を設定した。

生徒観（調査結果等から見る課題）

令和2年度7月実施第2回実力テストに以下のような問題が出題されていた。

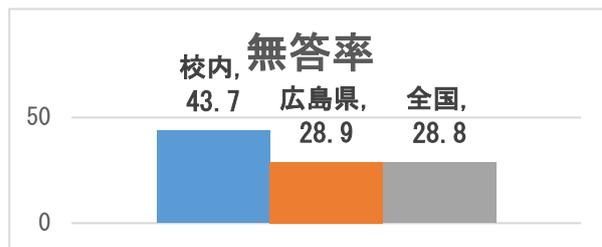
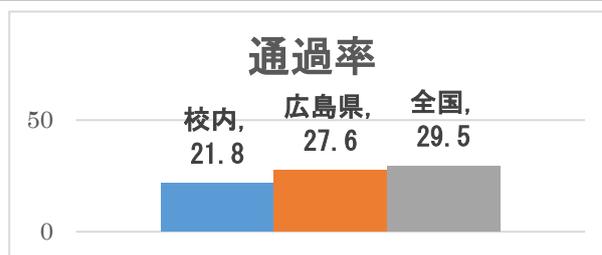
右のグラフはこの問題の無答率を全国、広島県と比較したものである。

資料Ⅲは、第8代将軍徳川吉宗が享保の改革で定めた公事方御定書の内容である。徳川吉宗がこの法令を定めた目的を、「基準」という語句を使って、簡潔に書きなさい。

資料Ⅲ

20条 関所を通らずに山をこえたり、ひそかに関所を通ったりした者は、その場ではりつけにする。

30条 領主に対して一揆を起こし、集団になって村から逃げ出したときは、指導者は死刑、名主はおもな都市などから追放とする。



本学級の生徒は、日頃から落ち着いて学習に取り組むことが出来ている。一方で自分の中にある考えを表現することに対して苦手意識があり、授業でも意見が出にくい状況にある。自分の考えを表現することで、深い学びにつながったり、新たな課題が出されたり、友達の意見を聞くことで自分の考えを自信に変えたりすることが出来るが、その部分に課題がある。また、令和2年度の第2回の実力テストにおいてもその課題が影響していることが読み取れる。この問題では、公事方御定書の内容をもとに、この法令を出した目的を説明する問題である。難しいグラフの読み取りがあるわけでもない。これは、日頃から文章で表現したり、言葉で表現したりすることに慣れていないことが考えられる。また、記述問題への苦手意識からあきらめていることもうかがえる。本県の公立高校の入試問題は、記述問題の割合が60%以上であることから、克服していかなければならない。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

本単元では、本単元は、一地域住民として自分のまちをより住みよいまちにするにはどうすればよいか、という観点から、「自分はこうすべきだと思う」という考え・思いを対話させ、実際に自分が行動を起こし、どう社会と関わるのか、すなわち「社会参画」という要素を意識して指導する必要がある。したがって、自分の住むまちに対する「まちづくり」を提案することを単元を貫く課題に設定する。そのために、地方自治に関する基礎的・基本的な知識、まちづくりの視点を習得させる。最終的に、実際に「尾道市のまちづくり」について考えさせ提案する。特に、まちづくりを提案するにあたっては、多面的・多角的考察ができるように指導を行う。

また、生徒観にあるように自分の中にある考えを表現することに対して苦手意識があるため、自分の考えを出しやすい環境を整える工夫が必要である。そのために、KJ法を使い、質より量を意識することで意見を出しやすくする。また、出た情報を思考ツールで可視化し、操作しやすくするため、話し合いなどの場面で子どもたちが「主体的」「対話的」に関わる状況を生み出していく。

単元の目標

- 身近な地域の政治に関心を持ち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることを自覚することができる。【学びに向かう人間性】
- よりよい尾道市を作るための政策について、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができる。【思考力・判断力・表現力】
- 地方自治の基本的な考え方や仕組み、地方財政の現状と課題などについて理解することができる。【知識・技能】

本校で育成を目指す資質・能力と評価規準との関わり

資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための手立て
主体性・協働性	○身近な地域の政治に関心を持ち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることを自覚することができる。	・自分たちが住む尾道市を中心に考えることで、学ぶ必要性を感じさせる。
思考力・判断力 ・表現力	○よりよい尾道市を作るための政策について、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力。	・思考ツールの活用。 ・KJ法の活用。
知識・技能	○地方自治の基本的な考え方や仕組み、地方財政の現状と課題などについての理解。	・視覚教材を使うことで理解を促す。

単元の評価規準

主体性・協働性	思考力・判断力・表現力	知識・技能
---------	-------------	-------

<p>①身近な地域の政治に関心を持ち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることに気づいている。</p> <p>②地方公共団体や地域との関わりの中で、中学生としてどのような役割が担えるか、主体的に考えている。</p>	<p>①よりよい尾道市を作るための政策について、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができている。</p>	<p>①地方公共団体の役割や仕組みについての知識を身につけている。</p> <p>②地方公共団体の財政についての問題点を資料から読み取っている。</p>
--	--	--

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価	
		評価規準（評価方法）	
1	地方自治と地方公共団体 ○地方公共団体の仕事 ○民主政治を支える地方政治 ○地方分権の動き	主体性・協働性 知識・技能	①身近な地域の政治に関心を持ち、自分も住民の一人として住民自治を担う存在であることに気づいている。 (ワークシート・振り返りカード) ①地方公共団体の役割や仕組みについての知識を身につけている。 (ワークシート・振り返りカード)
2	地方公共団体のしくみと政治参加 ○地方公共団体のしくみ ○地方議会・首長と私たち	知識・技能	①地方公共団体の役割や仕組みについての知識を身につけている。 (ワークシート・振り返りカード)
3	地方財政の現状と課題 ○地方公共団体の歳出 ○地方公共団体の歳入 ○効率的な地方財政をめざして	知識・技能	②地方公共団体の財政についての問題点を資料から読み取っている。 (ワークシート・振り返りカード)
4	尾道市のまちづくりを考える	思考・判断・表現	①よりよい尾道市を作るための政策について、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができている。 (ワークシート・振り返りカード・付箋)
5	これからの地方自治 ○社会の変化と地方自治 ○住民参加の方法	主体性・協働性	②地方公共団体や地域との関わりの中で、中学生としてどのような役割が担えるか、主体的に考えている。 (ワークシート・振り返りカード)

本時の学習

(1) 本時の目標

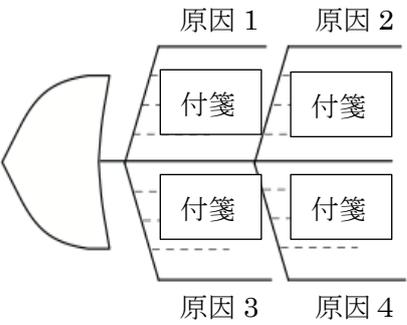
尾道市のまちづくり(政策)を通して、まちづくりは様々な視点から公正に考えることが大切であることに気づく。(思考力・判断力・表現力)

(2) 準備物

教科書, ワークシート, テレビ, ホワイトボード

(3) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入	<p>①全国的な地方自治体の課題を確認する。</p> <pre>graph TD; A[人口減少(流出)] --> B[少子高齢化]; B --> C[税収の落ち込み]; C --> D[地方公共団体の活力低下];</pre>	<p>◇パワーポイントで全体に資料を提示する。 ◇ここに時間をかけないようにテンポ良く進める。 ◇これからの時代, どの地方公共団体にも様々な課題が生じてくることを確認する。 ↓ 尾道市も課題を抱えており, 自分事として意識させる。</p>	
<p>めあて 尾道市の課題をもとに, 多くの人々が将来帰ってきたい, 住みたいと思うまちにするための方策を考える。</p>			

展 開	<p>②資料をもとに尾道市の人口減少(流出)の原因を考える。</p> <p>(1)個人で付箋に書き出す。</p> <p>(2)グループで意見を出して、まとめる。</p>  <p>③グループで出した人口減少の原因のをもとに、改善の方策を考える。</p> <p>思考ツールで出た課題をもとに、グループで話し合い、まとめる。</p>	<p>◆机間指導で、資料のポイントになる部分を意識させる。</p> <p>◇思考ツールを使い、分類して意見まとめる。(司会/書記/発表)</p> <p>◇様々な視点から考えさせる。 (中学生・20代・保護者・高齢者・農業従事者・商店や飲食店など)</p> <p>◇若者中心ばかりの政策や非現実的な政策にならないようにする</p> <p>◇財政的な問題も意識させる。 ※他の自治体の政策を準備しておく。</p>	<p>○政策について、多面的・多角的に考察し、公正に判断することができている。</p> <p>(ワークシート、振り返りカード、付箋)</p>
ま と め	<p>④グループで出した、課題と政策を全体で共有する。</p> <p>【予想される意見】</p>	<p>人口流出の原因</p> <p>産業の衰退 山間部・島しょ部の交通インフラ</p> <p>商業・娯楽施設がない 坂が多く生活しにくい 商店街の衰退</p> <p>人口流出への対策</p> <p>大企業の誘致 農業の活性化(ブランド化) 観光客の集客</p> <p>ご当地ブランド・特産品 ネット(SNS)を活用した広告</p> <p>乗り合いタクシー</p>	<p>⑤各グループの意見を聞いて返る。</p>
<p>尾道市のまちづくり(政策)を通して、まちづくりは様々な視点から公正に考えることが大切であることに気づく。</p>			

